

令和4年度

教職課程

自己点検評価報告書

鶴見大学短期大学部

令和5年3月

## 鶴見大学短期大学部 教職課程認定学科一覧

保育科

専攻科保育専攻

### 全体評価

学校法人総持学園鶴見大学短期大学部は、昭和 28(1953)年に設置された。大 13(1924)年、仏教精神に基づく光華女学校が設立され、学校法人総持学園は、令和 6(2024)年に学園創立 100 周年を迎える。現在は幼稚園、中学校、高等学校、大学、大学院の教育課程を備えた総合学園として、横浜鶴見の地に根差し、地域の教育・医療・保健・福祉を担う人材を輩出し続けている。

令和 5(2023)年に創立 70 周年を迎える鶴見大学短期大学部は、女子短期大学として設立されたが、その後、組織変更、名称変更及び男女共学化を経て現在は、保育科、歯科衛生科、専攻科の 3 学科で構成されている。保育科は 2 年課程で保育士資格と幼稚園教諭 2 種免許状を、歯科衛生科は 3 年課程で歯科衛生士の資格を取得するためのカリキュラムがそれぞれ編成されている。また、1 年課程の専攻科は保育専攻と福祉専攻があり、保育専攻では幼稚園教諭一種免許状、福祉専攻では介護福祉士の資格取得のためのカリキュラムが編成されている。

教育課程の編成においては、建学の精神を踏まえた全学ディプロマ・ポリシーの下、各科の学位授与方針及び修了認定方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各教科・教職科目を配置している。また、本学独自の禅仏教の教えに基づく生命尊重の思想や倫理観の涵養を重視し、「仏教保育」や「宗教学」等の科目を開講している。さらに、教育課程は全体の系統性を考慮して編成されるとともに、講義、演習、実習の関連性を保ちつつ、学生にとって有効な学びとなるよう工夫されている。

なお、志望者(受験生)の減少により令和 4 年度の修了生を最後に福祉専攻は廃止されるが、他学科においても学生数の減少は顕著であり、特に保育科においては定員を割る状況が続いている。

本学における教員養成は、保育科、専攻科保育専攻において、教職課程認定基準を踏まえ、十分な教育研究業績を有する教員及び現場経験のある教員を配置して実施している。保育者になるという明確な目的をもって本学に入学する学生がほとんどであり、入学者のほぼ全員が教職課程で学び免許を取得する。この 5 年間の幼稚園教諭二種免許状取得状況は約 98%であり、卒業後、各地の保育現場で幼稚園教諭等、保育者として勤務している。これまでに卒業・修了し、幼稚園教諭免許状を取得した者は 1 万 2 千人を超える。

また、本学教務課は、学科の教育課程及び教職課程を統括的に管理し、教員と連携を図りながら個々の学生のニーズや課題に対応する学修支援を行うなど、適切に教職課程を運営している。さらに、令和 4 年 4 月 1 日には、教職課程運営委員会が設置され、学科長、教職課程担当教員及び教務課職員等の委員で構成される本委員会において、教職課程に係る重要事項を協議している。

教職課程教育を行う上での施設・設備も充実しており、講義室、演習室、情報処理学習室、実習室のほか音楽室、造形室、体育館、図書館など、各教科・教職科目の学修にふさわしい環境が整備されている。保育科、専攻科保育専攻の学修においては、隣接する附属三松幼稚園が学生の体験学習や実習の場として機能している。附属幼稚園以外にも地域の幼稚園での実習及び幼稚園教諭や園長が授業に協力したり、交流する機会がある。横浜市幼稚園協会やこども園園長会等との連携も図られ、合同就職ガイダンス等も行われている。さらなる幼児教育の充実と質の向上のため、卒業生を中心に保育のネットワークづくりやリカレント教育の実施を構想していきたい。こうした取り組みや教育の充実及び発信が、学生(受験生)確保につながるよう全教職員で協力・協働していくことが肝要である。

鶴見大学短期大学部

短大部長 天野 珠路

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	11
III	総合評価	17
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	17
V	現況基礎データ一覧	18

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名：鶴見大学短期大学部
- (2) 所在地：神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2 - 1 - 3
- (3) 学生数及び教員数

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学生数： 教職課程履修 2 2 8 名／学部全体 2 2 8 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも） 1 6 名／学部全体 1 8 名

### 2 特色

本学は、禅仏教の教えに基づいて、円満な人格形成と人類社会に対する感謝・報恩の実践をもって建学の精神としている。この建学の精神は、「大覚円成」「報恩行持」の二句八字で示される。保育科・専攻科保育専攻では、禅仏教の教えに基づき、宗教的情操に裏打ちされた円満な人格形成と豊かな識見をもった向上心あふれる保育者を養成することを目的としている。

保育科は、2 年課程であり、短期大学士を授与するとともに、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得を可能とし、禅仏教の教えに基づいた生命尊重の思想や、高い倫理観をもち感性豊かな優れた実践者として一人ひとりの学生が育つことを念頭に教育課程を編成し、実施している。

専攻科保育専攻は、学科における基礎のうえに、子どもの健全な発達と幸福に貢献し、人間性豊かで有能な指導性を備えた専門的実践者を養成することを目的としている。（独立行政法人）大学改革支援・学位授与機構により認定を受けている 1 年制の認定専攻科であり、保育の実践能力を有する保育者の養成を目的として、幼稚園教諭一種免許状教職課程を置いている。

これらにより、保育科・専攻科保育専攻では、禅仏教の教えを柱として保育の専門家として日々精進する（大覚円成）ことで世の中に貢献できる具体的行動を起こす（報恩行持）ことのできる保育者に育つことが目指されている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状説明〕

保育科・専攻科保育専攻では、学則、全学ディプロマ・ポリシーの下、以下の通りディプロマ・ポリシーを定めている。

##### 保育科学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 教育、保育、福祉、医療の各分野に通底した生命尊重の思想や倫理観を基盤にして、深い自己洞察を行い、世界における自己の役割を位置づけることができる。
2. 禅仏教の教えに基づき、保育者として深い教養と広い視野を身につけ、子どもと親に寄り添いつつ子どもの発達を援助できる。
3. 保育者として子どもの健全な発達、発達と福祉を保障していこうとする自覚と実践力をもつことができる。
4. 多様化した現代社会において、保育者としての使命と責任を自覚し、保育に対して主体的、かつ真摯に取り組む意欲をもっている。
5. 感謝と思いやりの心をもって地域社会や家庭とかわり、専門的知識・技能を備えた保育者として活動する姿勢を身につける。

##### 専攻科保育専攻においては修了認定方針

1. 保育に関する基礎的学修を基に、更に社会の変動にも十分な視野を持って保育の意義を認識できる。
2. 保育に関する基礎的知識を基に、人間性豊かな子どもへの保育実践と保護者支援の専門性に基づく働きかけができる。
3. 保育の専門的実践者として常に研究心を持ち、自己研鑽の姿勢をもち続けることができる。

また、これらを踏まえた教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、教育職員免許法及び保育士養成課程に則り、カリキュラム編成を行っている。保育科・専攻科保育専攻の教職課程教育の目的・目標はディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに内包される。

保育科の各教科はナンバリングし履修系統図として表すと共に、教職課程科目についてはその位置づけを示している。専攻科保育専攻においても教育課程における教職課程科目の位置づけを示している。これらは、本学ホームページ及び履修要項に記載し、関係教職

員に共有・周知する他、非常勤講師交流会で説明している。また、保育科1年次生を対象に実施する「教育実習及び保育実習に関する実習総合オリエンテーション」は、原則として専任教員全員が出席し、学生と教員が一堂に会して教職課程教育について理解し、共有する機会となっている。このように教職課程教育の目的や体系を共有し、計画的に教職課程指導を行っている。

学位授与方針に明示した学修成果の評価については、アセスメント・ポリシーを定め、明示している。各教科は、シラバスにて到達目標及び成績評価の方法が示され、教職課程における学修成果が可視化できるようにしている。また教職課程を含む教科全体について1セメスター毎にGPAを確認し、1.0以下の学生には担任が指導を行っている。加えて保育科においては1年次学年末及び2年次後期開始時に履修カルテを作成し、教職課程科目各教科について学生が到達目標を指標として学修を振り返ることができるようにしている。

### 〔長所・特色〕

本学の校舎は、曹洞宗の本山である總持寺の敷地内にあり、仏教行持を肌で感じられる厳粛な雰囲気の中で、学生は勉学に勤しむことができる。

保育科には幼稚園教諭二種免許状取得の、専攻科保育専攻には幼稚園教諭二種免許状を基礎とした幼稚園教諭一種免許状取得のための教職課程を設置している。また建学の精神に基づくディプロマ・ポリシーが教職課程教育の目的を内包しているという関連性がある。保育科では「宗教学」「仏教保育」を卒業必修科目として開講するとともに、附属三松幼稚園にて実習を行い、仏教保育の実践に触れる機会を設け、禅仏教の教えと専門科目との関連性の理解に繋げている。専攻科保育専攻では「仏教保育特論」を開講し、附属三松幼稚園における学外学習の機会を多く設けている。これらを通して、建学の精神及び保育科・専攻科保育専攻の目的を踏まえた教職課程教育の目的が達成できるようにしている。

専攻科保育専攻は、(独立行政法人)大学改革支援・学位授与機構により認定を受けている1年制の認定専攻科であり、幼稚園教諭二種免許状保有者については、本課程を修了したのち、1年間の科目等履修を行って所定の単位数を修得し(独立行政法人)大学改革・学位授与機構における審査を経て学士の学位が認定・授与されると、幼稚園教諭一種免許状が取得できる。

教職課程の位置づけや体系は、大学ホームページや履修要項にて広く公表している他、非常勤講師交流会にて専任教員及び非常勤講師に、実習総合オリエンテーションにて専任教員及び学生に説明し、共有を図っている。

### 〔取り組み上の課題〕

上記のように、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた教職課程教育の目的を共有しているが、これらをより明確にし、学生とも共有できるよう、次年度以降シラバスに各教科と各ポリシーとの関連を明記し、学修成果を具現化していくことが課題である。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：建学の精神

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/spirit.html>

- ・資料 1 - 1 - 2 : 教育方針 (3 つのポリシー)

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>

## 基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状説明〕

本学保育科および専攻科保育専攻は、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場経験のある教員を適切に配置している。また、短期大学部教務課では学科の教育課程および教職課程を統括的に管理している。教員は保育科・専攻科保育専攻共に担任制に基づく学生支援を行っており、担任は必要に応じて教務課と連携しながら個々の学生の学修状況の把握や課題に対応する学修支援体制を構えるなど、適切に教職課程を運営している。

教職課程に関する重要な事項を研究・協議または処理するため、令和 4 年 4 月 1 日に「教職課程運営委員会」が設置され、短期大学部の保育科長・専攻科主任、保育科教務委員、保育科教職課程担当教員、専攻科教職課程担当教員、歯科衛生科教員、教務課長、その他必要に応じて委員会が出席を求める教職員が委員となっている。当該委員会は、(1) 教職課程に係るカリキュラムの編成及び実施に関すること、(2) 教育実習の企画及び運営に関すること、(3) 委員会及び教職課程に係る自己点検・評価に関すること、(4) 教職課程に関して調査・研究し、又は協議・検討して企画・提案すること、(5) その他教職課程に関する必要な事項を審議するものである。

教職課程教育を行う上での施設・設備については、併設する鶴見大学文学部と共用しており、201 名以上収容の講義室が 7 室、91~200 名収容が 5 室、さらに演習室が 18 室、情報処理学習室が 1 室、語学学習室（マルチメディア教育センター）を 4 室設置している。短期大学部専用棟（4 号館）には、練習アシスト付き電子ピアノ 50 台がある音楽室や個人練習用のピアノレッスン室 17 室などがあり、造形室や調理実習等を行う実習室も整備されている。また、体育館には室内競技場、リズム室があり、十分に体を動かせるスペースがある。それぞれの教室には必要に応じてプロジェクターやスクリーン、DVD やブルーレイ、ビデオ等各種再生機、書画カメラなど、多様な授業内容や遠隔授業の提供に資する設備があり、教務課・管財課が対応・管理している。図書館は学術雑誌、電子情報などを含め約 86 万冊の蔵書があり、充実した整備状況である。図書購入の選定は、専任職員 2 名を担当とし、図書委員会での推薦図書及び教職員、学生からの希望図書もその対象に含めている。書庫狭隘化解消や学外からの資料へのアクセスを促進するために、電子資料の積極的な導入に努めている。また、図書館では、国立情報学研究所が大学情報環境整備支援のために提供している「学認」や「UPKI 電子証明書サービス」を導入しており、学術情報の公開、共有の為に「CiNii Research」「CiNii Books」「CiNii Dissertations」「NACSIS-CAT/ILL」「IRDB, JAIRO Cloud」を利用し、「オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)」に加盟することで、教育研究支援を行っている。また、他大学図書館との連携として、「神奈川県図書館協会」「神奈川県大学図書館協議会」「横浜市内大学図書館コン



ソーシアム」などに加盟し、共通閲覧証により他大学図書館の利用を可能とするなど、利用者サービス向上に努めており、専攻科保育専攻の学生が特別研究や保育内容研究等の自己学習を行う際の充実した資料が整っていると同時に、保育科の学生が実習の際に必要なとする絵本や紙芝居など保育に特化した書籍等を含め、各教職課程における教科・教職科目の学修に十分な資料が用意されている。

本学は、入学時に新入生（および全授業担当者・職員）に Microsoft 社のアカウントを付与し、同社の TEAMS やメールソフトを使って即座に教員に相談できる体制を整備している。オンライン教育を行うにあたっては、令和2年度は在学生全員に、令和3年度は新入生に「学修環境整備支援金」を1人あたり10万円支給し、通信環境確保の支援を行った。また、インターネット接続等に関する技術的なサポートの他、オンライン学習システム manaba の利用方法については、教務課を中心に、教務委員及びクラス担任や情報システム課と連携しながら支援を行い、学修を支援している。端末の確保や接続が難しい学生に対しては、学内のパソコンルームや図書館の PC を提供し、キャンパス内には無線 LAN や印刷機器を配備している。なお、オンデマンド授業については、視聴や課題提出の期間を1週間ほど設けるようにしており、体調不良や通信環境不良にも対応できるようにしている。

#### 〔長所・特色〕

保育科は、幼稚園をはじめ保育所や施設などの現場経験者を多く採用し配置している。保育内容研究（保育内容指導法の科目）をはじめ多くの科目において専任と非常勤講師が連携を取りながら共に担当している。教職課程の質については、学生が2回以上欠席した場合には、教科担当者から学生支援課へ連絡し、その結果が各クラス担任に情報共有され、クラス担任が本人へ個別指導を行い、学生がリタイアせずに学び続けることができるよう支えている。また、各教科について学生に授業アンケートを行い、その結果はグラフ等によって可視化し、授業改善に繋がるようにしている。

担任制を採り迅速な対処と学生の情報共有が可能であることに加え、本学保健センターが心身の健康、保健衛生及び安全への配慮の中心となっていることが特色である。特に体調不良、COVID-19 濃厚接触者、感染した学生については、保健センターが一括して管理し、常駐の看護師がいつでも相談できる体制を取っている。実習中の罹患、または体調不良等の学生にも対応ができています。また過去7年間の就職率は100%であり、このうち保育士資格または幼稚園教諭二種免許状を活かした就職は98.2%となっている。

教職課程の質については、GPA 分布、単位取得状況、免許資格取得状況、また1年次終了時、2年次前期終了時に学生が記入する「履修カルテ」等を共有・点検している。1 Semester 毎に GPA が 1.0 以下の学生には指導を行い、その結果を教務委員会に報告し共有している。また、学生には「学生の学修・生活に関する調査」を実施して実態を把握し、「卒業時アンケート調査」の学修成果に関する設問からはディプロマ・ポリシーと関連付け、ディプロマ・ポリシーに応じた学修成果を把握している。なお、学修成果の把握及び評価の取り組みについては、全学教学マネジメント会議・全学自己点検評価委員会・大学運営協議会が関わっている。

神奈川県下の保育者養成校では、一番歴史のある伝統校であり、多くの卒業生が現場で

保育者として活躍しているため、卒業生の協力も得ながら現場での学びと大学での学びをリンクさせ、教職課程における学びを深めている。

**〔取り組み上の課題〕**

令和4年4月1日に「教職課程運営委員会」が設置され、教務課、保育科、専攻科保育専攻、歯科衛生科の委員の協働により教職課程の質保証に取り組んでいる。今後更に、実習を含む教職課程教育の充実と自己点検評価の組織的な実施を促進することが課題である。

**<根拠となる資料・データ等>**

- ・資料1-2-1：アゴラ第154号（2022年7月1日）
- ・資料1-2-2：鶴見大学図書館資料収集・管理規程
- ・資料1-2-3：学修環境整備支援金

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/soshiki/2/200507.html>

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状説明〕

本学では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定め、大学案内や募集要項、大学ホームページ等に公表している。また、選抜方法ごとに入学者選抜方針を示すと共に、入学前の学修歴、学力水準、能力等の求める学生像を明記して、募集要項や大学ホームページ等に公表している。保育科については、オープンキャンパスや高校教諭対象入試説明会等で、保育専攻については、専攻科進学説明会において説明し、各教職課程で学ぶにふさわしい学生像を理解して入学できるようにしている。入試においては、入学者選抜方針により適切に選抜し、入学者の質確保ができるようにしている。

保育科では、入学者のほとんどが教職課程で学び、この5年間の幼稚園教諭二種免許状取得状況は約98%である。そのため、入学者受入れ方針が教職課程の履修を開始・継続するための基準である。教職課程認定申請はこの入学定員によって行っており、卒業認定・学位授与の方針も踏まえて教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れていると言える。履修にあたっては、入学時の教務オリエンテーションにて、教職課程について説明し、履修登録時には幼稚園教諭への基本的理解と意欲を確認し、履修が開始できるようにしている。

教職指導としては、1年次前期に設置した「教育実習概論」において、教職に対する自覚や責任をもち、教育実習に臨む姿勢を培う。5名の専任教員が担当し、教員一人あたりの指導学生数を少なくすることで、個々の学生に応じた指導が可能となるようにしている。

「履修カルテ」は1年次学年末と2年次後期開始前に記入し、学生が教職科目についての学修を振り返り、履修状況を把握できるようにするとともに、教員が教職指導に活用している。また、クラス担任制を採っており、2年間を通じてほぼ同じ専任教員が、学生の教職への意思や履修状況を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。

保育専攻の教職課程を経て教員免許状を取得するためには、基礎資格として幼稚園教諭二種免許状が必要となる。そのため、教育課程編成・実施の方針も踏まえ、幼稚園教諭二種免許状の教職課程を履修していることが教職課程の履修を開始・継続するための基準となる。平成29（2017）年度から令和3（2021）年度の5年間で合計27名が学士の学位及び幼稚園教諭一種免許状を取得した。保育専攻の入学定員は20名であり、卒業認定・学位授与の方針も踏まえ、教職課程認定基準に照らし、適切な規模の履修学生を受け入れている。

教職指導としては、専攻科担任が学生の教職への意思や履修状況を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。また、教職課程外ではあるが「専攻科実習」を設置し、実習に臨むにあたって幼稚園教諭二種免許状取得者としての自覚と責任を確認するとともに、4名の専任教員が担当することで、5名以下の学生あたり1名の教員が、個々の学生の適性や資質に応じた教職指導を行っている。

### 〔長所・特色〕

保育科では「総合型選抜」の面接を「面接型（対話）」「プレゼンテーション型（保育表現アピール）」「プレゼンテーション型（保育体験アピール）」の3種とし、受験生が自らの長所や特性に合わせて選択できるようにするとともに、保育者を目指す意思を受験生自身が確認したり、専門領域への関心を高めたりすることができるよう工夫している。

また、入学予定者に対し、入学後の学修に備えた基礎学力と学習意欲の維持・向上を目的に、入学前教育を実施している。入学前教育課題は、専任教員が作成した、保育に関する文章問題であり、基本的な国語及び保育の考え方に触れることができるものである。回答に対しては専任教員が分担して採点を行い、所見を記して担任から返却することを通して、入学後の専門分野の学修に繋がるようにしている。また、希望者には本学音楽室において、ピアノの個別指導を行っている。慣れないピアノ演奏への不安を和らげ、見通しをもって準備ができるようにしている。

専攻科保育専攻では、面接、小論文、志望動機、研究したいテーマ、単位成績証明書によって選抜を行い、それまでの学修を基盤として専門的課題意識をもって入学できるようにしている。入学時には既に幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得または取得見込みであり、保育に関する基本的知識と技能を修得した学生が、幼稚園教諭第一種の教職課程において更に学修が深まるよう準備している。

### 〔取り組み上の課題〕

保育科での「履修カルテ」の記入は、1年次学年末と2年次後期開始前の2回行っているが、1年次半ばに、個々の学修状況を振り返ったり、教員が確認したりする機会が、成績評価のみとなっている。そのため、学修状況を継続的に把握する機会を検討していく。なお、上述の通り1年次前期には「教育実習概論」にて教職指導を行っている。

専攻科保育専攻では、幼稚園教諭一種免許状の取得のためには専攻科修了後1年間の学修を必要とする。その間のサポートは個々の教員が行っており、全体状況の把握が難しいことが課題である。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：大学案内2023
- ・資料2-1-2：鶴見大学短期大学部募集要項
- ・資料2-1-3：専攻科（保育専攻）募集要項
- ・資料2-1-4：アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>
- ・資料2-1-5：資格取得等実績  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/junior/childhood-index.html#sikaku>
- ・資料2-1-6：鶴見大学データBOOK  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/databook.html>
- ・資料2-1-7：シラバス

- ・資料 2-1-8：履修カルテ
- ・資料 2-1-9：専攻科保育専攻入学者数及び入学時保有資格免許の状況
- ・資料 2-1-10：専攻科実習の手引き
- ・資料 2-1-11：保育科入学前教育資料
- ・資料 2-1-12：ピアノ個別指導案内

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

保育科・専攻科保育専攻では、入学者のほとんどが教職課程で学ぶため、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に従い選抜試験を実施し、学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

キャリア支援課が実施する就職ガイダンスでは、学生が実習で学んだことを今後に繋げることができるよう、学修過程を踏まえた就職までの見通しや就職活動に際しての注意事項等を伝えることで、学生のニーズに応えたキャリア支援を実施している。

また、各施設より内定を得た先輩学生から後輩学生に対して、内定報告会を教員協力のもと授業内で開催し、就職活動や内定を得るまでのリアルな声を伝えることで、就職活動をより深く理解できるようにしている。

教職に就くための情報提供については、「学内情報システム(ポータルシステム)」や学内掲示板を通して、各都道府県や園の採用試験及び説明会情報を提供している。これにより、教職に就くことを目指す学生がいつでもキャリア支援を受けることができる環境にある。

また、大学に届いた各園の求人票についても「鶴見大学キャリアナビ(キャリアタス UC)」で確認することが可能であり、学生が自ら積極的に情報収集できる環境を整えている。

本学では、「横浜市幼稚園協会」「横浜市保育園こども園園長会」の会長や関係者をお招きし、合同就職ガイダンスを教員協力のもと授業内にて開催している。また、ガイダンス後には個別相談も実施している。

また、横浜市、川崎市、東京都等の幼稚園協会が主催する養成校との交流会に職員が積極的に参加し、卒業生の状況を把握するとともに、神奈川県主催の現任保育者との交流会、合同就職ガイダンス等を本学で実施する等各地域との連携を図っている。

### 〔長所・特色〕

内定報告会では、内定を得た先輩学生から就職活動の実体験を話すことで、後輩の就職活動に活かすことができる。特に、筆記試験対策や面接対策等、参考本を持参して話す学生もおり、内定報告会終了後に後輩学生が先輩学生に直接質問をして交流している姿も特色として挙げられる。

「学内情報システム(ポータルシステム)」を通しての情報提供に加え、教員とも連携して主に授業で使用する「学内情報システム(manaba)」でも情報の配信を行い、学生が情報の取得漏れのないようにしており、ほとんどの学生が就職ガイダンスに休むことなく出席している。

「横浜市幼稚園協会」「横浜市保育園こども園園長会」合同就職ガイダンスにおいて、各

幼稚園の求める教員像ややりがい等、より深く教員の仕事について理解することができている。

また、合同就職ガイダンスには卒業生も登壇しており、どのように就職活動を進めてきたか等のリアルな声を知ることができ、幼稚園教諭の存在をより身近に感じることができる。

#### 〔取り組み上の課題〕

キャリア支援課を中心に、学生の教職への意志や希望を丁寧に確認し、キャリア支援を行っており、多くの学生が自身に適した就職を実現している。一方、近年就職活動が早期化しており、十分な学修を基にした就職支援が難しい学生もおり、個々の状況把握をより丁寧に行うことが課題である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>

- ・資料2-2-2：鶴見大学ポータルシステム

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/campus/service.html>

- ・資料2-2-3：manaba

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/campus/manaba.html>

- ・資料2-2-4：鶴見大学キャリアナビ

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/career/careernavi.html>

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状説明〕

保育科及び保育専攻では、全学ディプロマ・ポリシーの下、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び修了認定方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。また、これらに掲げた能力を身に付けることができるように、教育課程を編成している。

保育科では、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、1年次前期に「宗教学」を配置することで禅的情操及び多文化共生の考え方を基盤に各教科の学修が展開されるようにしている。また後期に「仏教保育」を配当し、禅的情操教育と保育の専門科目との関連性が理解できるようにしている。倫理教育については、1年次の必修科目である「保育者論」の授業において、2年次は年度はじめのオリエンテーションにおいて行われ、人権擁護や研究倫理等のほか、メディアリテラシーについて理解が深められるようにしている。幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得、もしくは同等の能力の獲得を求めており、教育課程における保育の専門科目の多くは教育職員免許法または保育士養成課程に即して編成している。

教職課程科目はコアカリキュラムに対応しており、基本となる内容を十全に押さえつつ、全体の系統性を考慮して教職課程を編成している。具体的には、「子どもと健康」等領域の専門的事項に関する科目、「保育内容総論」「教育原理」等の基礎的知識・技能に関する科目を主に1年次に配当し、「保育内容研究 e」等の保育内容の指導法に関する科目の一部、「幼児教育と教育相談の基礎」「特別支援保育」等の各論的応用的科目を主に2年次に配当するとともに、1年次後期・2年次前期に「教育実習」を設定することで、保育現場での実践を中心に体系的に学べるようにしている。

情報活用能力の育成として、教育職員免許法に基づき「情報機器の操作」の教科を設置し、一人一台のPCを使用して実践的な授業を展開している。また、保育内容の指導法に関する科目において、幼児教育におけるICT活用について学ぶ。

また、学生の主体的参加を促し効果的に教育を行うため、教員・学生間や学生同士のコミュニケーションの機会を確保する他、グループ活動等を取り入れ、主体的対話的に学習が深まるように工夫している。1年次4月から随時、附属三松幼稚園への保育参加等現場での実践を取り入れながら授業を展開し、知識と実践の往還的な学びが可能となるようにしている。また、少人数でのグループ討議や活動及び調査・研究等の発表を多くの教科で取り入れている。

教育実習を行うにあたっては、教育実習及び保育所実習について総合的に説明する機会である「実習総合オリエンテーション」への参加及び、「教育実習概論」「保育内容総論」「教育原理」の単位の修得または見込みを要件としている。基本的な考え方を理解し、実習目標をもって実習を行うことで、実りあるものとなるよう指導している。

「保育・教職実践演習」の一環として、1年次終了時、2年次前期終了時に履修カルテに教職課程科目の自己評価を記入し、各教科の到達目標に対する自身の到達度を手掛かりと

して、学生が学修を振り返り、自身の課題や特長を認識し卒業前の2年次後期の学修に生かせるようにしている。同時に教員もこれらを踏まえて「保育・教職実践演習」の授業が展開できるようにしている。他にも実習巡回報告書から、学生の学修状況を確認している。教育実習の巡回指導は教育実習担当教員と連携しながら全専任教員が担当しており、必要に応じて学生に教職指導を行っている。

保育専攻は1年課程である。教職課程科目外の教科である「専攻科実習」を前期に、実践事例検討を行う「保育演習」を通年に配置し、これらを連動させて実施し、この実践及び実践検討を軸に専門教育科目を配し、有機的に関連し合うことでディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに即した教育課程を編成している。このような教育課程全体の関連性を保ちつつ、教職課程科目についてはコアカリキュラムに対応し、教職に必要な内容が深まるようにしている。設置計50単位のうち、40単位が教職課程科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のためには20単位以上の取得が必要である。

教職課程においては、特に「現代保育論」において今日的な課題を学んでいる。「保育内容研究1～3」等の保育内容の指導法に関する科目においては、保育におけるICT機器の活用についても学ぶ。また、学生自身もレポートや発表等はPCを用いて行うことが多く、ICT機器を活用している。

「保育内容（表現）特論」や「保育指導法研究」をはじめ、多くの教科でグループディスカッションや附属三松幼稚園等の保育現場への参加を通して、主体的対話的な深い学びが得られるようにしている。

教職課程における実習は設置されていないが、「専攻科実習」における保育現場での取り組みや、「特別研究」における少人数の授業において、学生の保育実践における課題や特性を把握して指導を行う。また、専攻科担任が学生の教職への意思や履修状況を把握し、必要に応じて個別指導を行っている。

保育科・保育専攻いずれにおいても、シラバスの内容は、目的・概要説明、到達目標、授業スケジュール、準備学習（予習復習の時間含む）、指導方法、成績評価の方法、テキスト、参考書、備考である。成績評価の方法は、学期末試験、小テスト、レポート等の評価項目の内訳をパーセント表示し、その合計が100%になるようにしている。

### 〔長所・特色〕

保育科では基礎的知識・技能に関する科目を主に1年次に、各論的応用的科目を主に2年次に配当する等教職課程科目配置の工夫を行っている。

また、教育実習指導の充実を図っている。幼稚園・保育所・施設の3種類5教科の全ての実習を対象とした実習総合オリエンテーションを入学時に行っている。教育課程概念図を説明し、禅仏教の教えと保育の専門科目との関連が理解できるようにするとともに、実習を中心とした関連教科の説明も行い、これらを知った上で学修が進められるようにする。実習総合オリエンテーションには全員の専任教員が参加し、必要に応じた指導を行うとともに、実習を中心とした各教科の関連性や全体像が把握できるよう工夫している。

教育実習の科目として、教育実習Ⅰ（事前事後指導含む）2単位、教育実習Ⅱ（事前事後指導含む）3単位に加え、1年次前期に「教育実習概論」2単位を設置し、教育実習の知識、



態度、幼稚園の生活や子ども理解について学ぶ。1年次4月から随時附属三松幼稚園での保育参加を行い、実習への理解を深める。また、1年次9月には同園にて1日実習を行い、11月の教育実習に向けて見通しをもった準備ができるようにしている。

また、10月には実習交流会を実施している。実習を全て終えた2年次学生が主体となって少人数グループで行い、これから実習に臨む1年生に実習の体験と学びを伝える取り組みである。原則として全員の専任教員が参加し、学年を超えた学び合いを見守るとともに、必要に応じて教員が助言することで多様な視点や課題意識を持つことに繋がっている。

保育専攻では、教科間連携によってより統合的な学びとなるよう工夫している。「保育内容研究3（表現）」は表現分野を中心に専任教員5名が担当し、「音楽」「造形」「身体表現」「環境」と異なる分野の専門性を統合しながら多様な角度で子どもの「表現」を総体として捉える展開をしている。2022年度から教育課程変更を行い、領域の専門的事項に関する科目として「保育内容（表現）特論」を設置し、上記のうち4名が担当することで、連続性を更に強化している。

その他教職課程外ではあるが、「専攻科実習」と「保育演習」を連動させて展開していることも特色である。前期は実習のため週1日は学内授業を設定しないよう時間割を工夫し、「専攻科実習」で週1回実習を行い、実習ごとに学内での「保育演習」にて記録を基に実践を振り返り、深める、という過程を6回繰り返しながら課題を明確にしていく。このような研究的態度で課題を探究することで、知識と実践の往還的な学びを確かなものにする。また、「保育演習」は通年科目であり、この学びが他教科と関連し合って体系的な学びとなっている。

#### 〔取り組み上の課題〕

保育科の取り組み上の課題としては、学修成果の把握方法の検討がある。学修成果の把握にあたっては、実習状況や実習巡回報告書等による把握が直接的で非常に示唆に富む一方、分析的とは言い難く、組織的な改善にはなりにくい現状がある。より有効な活用方法について検討する。

専攻科の取り組み上の課題としては以下が考えられる。専攻科学生は、主体的実践的な内容も多く、自己学習にも積極的に取り組んでいる。一方、課題が重なり負担になることもあるため、教育課程全体の実態を把握する必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：教育方針（3つのポリシー）  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/policy.html>
- ・資料3-1-2：シラバス

## 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

### 〔現状説明〕

本学では、「大覚円成 報恩行持」(～感謝を忘れず 真人(ひと)となる～)を建学の精神として掲げ、教育と研究に並ぶ本学の使命として社会貢献を第三の柱として位置づけ、産学官連携に積極的に取り組んでいる。教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針では、地域社会等のニーズを踏まえ、社会貢献・共同研究・人材育成・体制整備・説明責任・教育研究促進・知財管理について明記している。さらに、このポリシーを本学ホームページ上に明示し、共有している。

学外組織との適切な連携体制として、「横浜市鶴見区」・「石川県輪島市」との協定、「JICA」との契約を締結している。また本学の地域連携推進課が主となり、平成 9 (1997) 年から「生涯学習セミナー」を開設、多種多様な講座を開講して、地域住民に学びの場を提供することにより地域との連携推進を図るとともに、社会的要請に応えてきた。短期大学部の教員もそれぞれの専門分野である「絵本講座」「子育て」「仏教と禅」「日本文学」等に関するさまざまな講座を担当している。令和 2 (2020) 年度以降、COVID-19 対策のために通常の講座開催は中止となるが、2021 年度・2022 年度は「つるみ連携カレッジ」をオンラインで行った。保育科専任教員が主に担当し、地域の現任保育者へのリカレント教育の場として保育現場の状況や課題を踏まえた内容を吟味・厳選し、実施した。

鶴見大学附属中学校・高等学校との連携では、「生活科学」において、ミツバチの観察を附属高等学校の学生と行っている。2022 年度光華祭(附属中学高等学校の文化祭)には保育科としてブースを設けて参加し、保育に関する掲示物、製作物等のほか、学生による紙芝居や手遊び、木の実などでのワークショップを実施し、見学者と一緒に楽しんだ。

保育科では、平成 15(2003)年より令和元(2019)年まで JICA からの要請に応え、中東地域における乳幼児教育の拡充を図るためにシリア、エジプト、ヨルダン、イエメン、サウジアラビア等の国々の教育行政官を受け入れ、日本の就学前教育について 2~3 週間のプログラムを組んで指導を行ってきた。プログラムには授業見学や学生との交流会、地域の幼稚園や保育園、小学校、療育施設、子育て支援施設の見学案内を実施した。

令和元(2019)年には、「子ども家庭福祉Ⅱ」の授業の一環で、鎌倉市で行われたミュージカルスクール・ガウリによる「赤ちゃんが参加するハッピーコンサート」に参加し、子育て支援の実際について実践的に学んだ。また、「社会学」の授業では、横浜市内神奈川区の NPO 法人アフリカヘリテイジコミュニティ主催のアフリカ人留学生との交流会(かながわ県民センター)に参加し、ダイバーシティ理解について体験的に学んだ。

学生のボランティア活動として、1 年次の授業「社会的養護」の履修者が、特定非営利活動法人児童虐待防止ネットワークの主宰するオレンジリボン運動に参加した。2 年次の「施設実習Ⅲ」の履修者は特定非営利活動法人フードバンク横浜が横浜市中区社会福祉協議会で行う、ひとり親支援(食料配布)に参加した。

令和 4 (2022) 年度の保育科保育学会において、介護施設長の招聘講演を行った。また、今年度は NHK の TV 番組で鶴見がスポットを浴びており、「社会学」の授業として鶴見と沖縄の関連についての講演会に学生が参加し、地域の方々と交流した。ボランティア活動へ

の参加については、ポスターなどで学内外での発表の機会を作っている。いずれも教職課程外の科目ではあるが、保育の専門性の理解を深めるものである。

専攻科保育専攻では、「保育指導法研究」の授業として、地域の幼稚園を訪れ、保育参加及び保育者との意見交換を行った。また、「保育内容研究1（言葉）」では、福音館書店を訪ねて、児童文化財に対する理解を深めた。「社会福祉特論」の授業の一環で、ユニセフ神奈川に協力し、学内でウクライナ緊急募金活動を2回にわたり行うなど、学生が社会貢献に参画できる機会を準備し、体験できるようにしている。

### 〔長所・特色〕

本学は横浜市の東にあり、交通の便が良く、広く地域と密接に結びつくことが可能である。教員の多くは、神奈川県、横浜市、東京都、さいたま市などから依頼を受けて保育関係者への研修等を担っている。教員の持つそれらの地域貢献や情報を活かして、学生が最新の保育実践や保育事情を学ぶとともに、学生のボランティアへの参加や、地域の保育現場の見学及び保育参加を行う等、実践知の涵養に力を入れている。特に、鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園園長は本学保育科の専任教員であり、保育科と連携して実習や授業を展開することができる体制が整っている。

専攻科保育専攻は、少人数クラスを活かして、授業にボランティア活動を取り入れたり、保育現場に向いて保育参加を行ったりと、学外学習の機会も多い。学生は基本的に幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得しているので、子ども理解を深めながらどのように保育していくことがよいかを保育者たちと話し合うことが可能である。保育現場での観察後に保育者と話し合い、保育の分析と考察を行う等、実際の現場での振り返りや考察により、実践的指導力を高めている。特に、「保育内容研究（表現）」では、表現系（音楽、図画工作、身体表現）の教員と環境（自然）の教員が合同で担当し、専攻科学生が附属三松幼稚園で子どもの多様な表現を引き出すための保育指導と考察を総合的に実践する授業を行っている。

### 〔取り組み上の課題〕

教育現場の理解に資するため、地域の教育・保育現場で働く卒業生たちから話を聴く機会を設けているが、卒業生との連携を更に強化することが課題である。同窓会を通して保育ネットワークの構築を図り、卒業生に向けてリカレント教育を継続的に行う等、現場との連携及び地域貢献を含め、積極的に取り組んでいきたい。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：産学官連携ポリシー  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/uploaded/attachment/1092.pdf>
- ・資料3-2-2：知的財産ポリシー  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/uploaded/attachment/1093.pdf>
- ・資料3-2-3：地域貢献情報等一覧  
<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/community.html>
- ・資料3-2-4：横浜市鶴見区との包括連携協定書

- ・資料 3 - 2 - 5 : 輪島市との包括連携協定書
- ・資料 3 - 2 - 6 : JICA 研修委託契約書
- ・資料 3 - 2 - 7 : 2019 年度生涯学習セミナー第 2 クール冊子

### Ⅲ. 総合評価

本学では、建学の精神に基づくディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに即して教育課程及び教職課程を系統的かつ有機的な関連性を考慮し編成している。また、禅仏教の教えを踏まえ、人間性豊かで実践力のある幼稚園教諭を養成するため、学内での授業と実習が連動するよう工夫するとともに、学生一人一人が「履修カルテ」に教職課程科目の自己評価を記入するようにしている。学生自らが見通しをもって主体的に学べるよう働きかけたり、担任教員が個別にサポートしたりしているが、さらに主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)につながるよう授業を工夫していく必要がある。特に二年課程の保育科では、教員が一方向的に知識等を教授する傾向があり、多様な視点で議論したり、体験学習の機会を増やす等、アクティブラーニングを意識した授業を取り入れていきたい。その際にも、建学の理念及び3つの方針(DP/CP/AP)との関連をシラバスに明記し、学生と共有することが必要である。

一方、教育実習指導の充実のため、実習総合オリエンテーションや実習交流会を実施したり、教科間連携によってより総合的な学びとなるよう工夫しているが、学生の学修成果の把握については課題がある。履修カルテを生かし、教職課程全体の実際を把握するとともに、学修の過程や取組状況などを把握する方法を教員間で検討することが必要である。

さらに、学修の成果を可視化できるような手立てを考え、学生と教員が共通認識をもって専門性を高めたり、授業の内容・方法の改善に繋がったりできるようにしていきたい。

本学の恵まれた教育環境を生かし、教育内容を充実させていくことは全教員に課せられた課題である。また、伝統ある本学の教育研究成果を社会に還元することも教員の大切な役割である。それぞれの専門性を生かした講座や体験学習を地域の方に向けて実施したり、地域の様々な人や機関と繋がり、学生の学びに生かしていくことはこれまでも行われてきたが、さらにその内容を充実させたい。特に、今後は卒業生との連携やネットワークの構築を進め、その中で保育者の現任教育(学び直し)に寄与できるようにしていきたい。地域におけるリカレント教育の拠点となるよう構想を練り、学び続けること、学びを深めることの重要性を発信していくことは、教職課程を持つ大学として当然の使命といえる。

### Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成に当たっては、以下の通り作成した。

第1プロセス：教職課程運営委員会より実施方針及び実施手順を提案し検討する。

第2プロセス：保育科・専攻科保育専攻の教職課程委員は、教職課程カリキュラムやシラバス内容を含む教育活動の法令由来事項について点検する。

第3プロセス：保育科・専攻科保育専攻の教職課程委員は、それぞれの教職課程の自己点検評価の進め方(観点や収集資料等を含む。)を検討し、点検評価活動を実施し、活動結果をもとに報告書を作成する。

第4プロセス：教職課程運営委員会は自己点検評価報告書を最終確認した後、全学自己点検評価委員会へ報告し、承認を得た上で情報を公表する。

第5プロセス：教職課程運営委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題を抽出・共有し、改善・向上に向けたアクションプランを策定する。

## V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人総持学園					
大学・学部名 鶴見大学短期大学部					
学科・コース名（必要な場合） 保育科、専攻科保育専攻					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					1 2 9
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					1 0 5
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					1 2 9
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					2 7
④のうち、正規採用者数					2 7
④のうち、臨時的任用者数					0
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他 ( )
教員数	7	8	1	0	2
相談員・支援員など専門職員数					